

クロツラヘラサギの繁殖行動

張鳳江・張躍文・王jiao・孫勇・梁余（遼寧鳥類研究中心）

邱英杰・徐克・劉欣（遼寧省林業庁）

鄭永成（大連市林業局）

訳福井和二

張躍文

記載によると、クロツラヘラサギ(*Platalea minor*)の繁殖地はわずかに朝鮮半島の西海岸に限られており、越冬は中国湖南省、貴州省、広東省、香港、福建省、台湾、澎湖列島、海南島とベトナムなどの地域で、福建省では留鳥とされている。今日、世界中の個体数総計はわずかに600余羽といわれる。分布域も狭く、数も少ない、それゆえ、絶滅危惧種として扱われている。

1999年8月筆者らは遼寧省石城島の杏仁砬(形人砬)*でクロツラヘラサギの繁殖群を発見した。この繁殖群は成鳥6、幼鳥3、巣3の群で、そのうち二つの巣に5個の卵があった。我々はこれらの繁殖状況の進展を観察したので、下記の通り報告する。

発見場所の状況

杏仁砬(39° 31' 39.2" N, 123° 02' 43.5" E)長山列島の東北に位置し、遼寧省長海県最大の島、石城島の一外郭島で、面積0.5km²、最高海拔47m、南高北低、周囲に暗礁が多く、東北部に狭い泥質の干潟がある。島には50余種の植物が生え、灌木は堅樺(*Betula chinensis*)が、草本は麦瓶草(*Silene conoidea*)が多く、現在、カラシラサギの成鳥約300、幼鳥400ほどが生息している。

繁殖行動

地域住民によると、1999年6月、8羽のクロツラヘラサギがこの島に渡ってきて、2日ほど島の周囲を飛び回っていたが、そのうち2羽が何れかへ飛び去った。島に残った6羽、3つがいが営巣を始めた。

巣造り。クロツラヘラサギは6月14日巣造りを開始した。観察によるとカラシラサギの古巣を利用し、ちょっと巣材を足して補修し、この貧弱な巣に産卵した。巣は使用中も補修され、さらに強固なものになっていく。形は盤状である(表1)。

産卵。クロツラヘラサギは1日おきに産卵し、そのとき雄は巣の近くで見守っている。時々飛び出して上空を旋回する。記載によるとクロツラヘラサギの産卵は1巣4~6卵となっているが、杏仁砬では通常3卵であった(表1)。

抱卵。クロツラヘラサギは第1卵を産むとすぐに抱卵を始め、通常は2~3時間毎に雌雄交替で抱卵する。交替した親鳥は2~3分巣の近くに立っているが飛び立っていく。抱卵時間の最も長いものは2号巣の6時間続けて抱卵した。1. 2号

巣の間隔はわずかに3mであり、したがって1号巣の雄と2号巣の雌が同時に交替し、抱卵しているのをよく見かけた。そのとき1号巣の雌と2号巣の雄と一緒に採食に飛び立っていくのを観察し、また一緒に採食地より戻ってきて交替、抱卵するのを見た。3号巣と1、2号巣の距離は300mほど離れており、親鳥は常に単独行動をしていた。抱卵期間は30日であらう。

転卵。抱卵中のクロツラヘラサギは通常日に3~5回転卵を行ない、10:00~15:00に多く行なわれた。転卵を行なった後、必ず羽づくろいをしてから、抱卵を続けた。

抱卵の中断(晒卵)。人的その他の脅威がないにもかかわらずクロツラヘラサギは日に2回、あるときは3~4回抱卵を中断する。多くは11:00~14:00に集中的に行なわれ、中断時間は抱卵時期および気象に関係がある。すなわち、抱卵初期には中断時間は短く、抱卵後期には長くなる。晴天では短く、曇、雨天では長くなる。抱卵初期では20~60分、以後次第に長くなり、孵化直前の暑い晴天では最長3時間に達することもあった。

育雛。クロツラヘラサギは1日に4~8回雛に給餌をする。親鳥がそ嚢に食物を蓄えて巣に帰ってくると、雛は鳴き叫んで親鳥の大きく開けた嘴の中へ小さな嘴を入れて、吐き戻される食物を呑み込む。給餌のときは親鳥と雛はともに頭の毛を逆立てる。3号巣は絶壁上にあって、幼鳥の体重を計ることができなかった。

採食。記載によると、この鳥は湖沼、池、河口、湿地沼沢、水田などに生息し、魚、甲殻類、昆虫、軟体動物などを主に食べている。杏仁⁰²はクロツラヘラサギにとってこの長海地区のなかでは、もっとも安全な場所として選択した営巣地だが、しかし、その周囲にはクロツラヘラサギの嘴による採食に適合した泥質の干潟は少ない。したがって、クロツラヘラサギは15km北にある庄河河口の干潟まで飛び、採食しなければならない。採食のための往復時間は2~3時間、もっとも長いときは5時間であった。

繁殖期。記載によると、クロツラヘラサギの繁殖期は5~7月末である。水辺の断崖、あるいは無人の小島に、つねに2~3巣が集まってで営巣するとあるが、今年の杏仁⁰²におけるクロツラヘラサギの繁殖終了は8月の末に達した。当地の村民の申し出によると、1、2号巣では6月にはすでに産卵していたが、7月2日に島に人が入り、巣が破壊されたとのことで、クロツラヘラサギは2度目の営巣をせざるを得なかった。このときすでに3号巣の雛は巣立ちしていたことと、1、2号巣で、産卵されていたことが証明されたことで、よしとしなければならぬ。1、2号巣は再び7月14日産卵、8月19日まで30余日間、雛の孵化が見られず、我々は孵化が成功するかどうか、ならびに3号巣の幼鳥が正常な発育をし、越冬地へ渡っていくまで観察を継続することとなった。

換羽. 8月初め, 成鳥の冠羽が脱落を始め, 8月18日にすべての鳥の冠羽が脱落を完了した. このことからクロツラヘラサギの換羽は8月の初め頃から始まるものと考えられる. さらに, 観察により雛の巣立ちが終わった後, 成鳥はすぐに換羽が始まることがわかった. 8月12日より抱卵していた鳥の離巢時間が次第に長くなって, 17日には終日帰ってこなくなった. 18日にはわずかに2時間抱卵のみだった. これらの行動は, 換羽, 渡りなどの時期がせまり, 成鳥の抱卵行動が不安定になったものと考えられる.

建議

クロツラヘラサギは日本, 北朝鮮, 香港, 台湾などでは, すべて良好な保護のもとにある. しかし, 某地区では乱獲, 乱猟という全く保護とは程遠い現象がときおりおきている. クロツラヘラサギの生息地, 繁殖地はさまざまな脅威にさらされており, 節度のない開発により, 環境は悪化している. わずかに残されたクロツラヘラサギと, その生息地, 繁殖地の保護は睫眉の問題として急がなければならない. このために, 我々は以下の3点を提案する.

1. 杏仁砦とその周辺島嶼の環境保護の宣伝活動を一層強化する. クロツラヘラサギが杏仁砦へ来て繁殖すること. 遼寧杏仁砦の生息環境の大きな改善をなし, クロツラヘラサギの繁栄に適した地域を逐次拡大することを説明しなければならない. 生態環境が改善するに従って, クロツラヘラサギがますます多く遼寧に来て繁殖するものと, 我々は信ずる. そのために, 我々は杏仁砦に隣接する島嶼に対して調査をし, 杏仁砦との距離5.6kmの元宝砦(39° 31' 39.1" N, 123° 12' 34.1" E)の環境, 地形などが杏仁砦ときわめて似ていることを知り, クロツラヘラサギの営巣地として選択の可能性がある場所であると考え. 現在この島に, すでにカラシラサギ150余羽, ダイサギ約100羽, ウ約30羽が繁殖している. さらに調査を進めることを提案する.

2. 野生動物の保護を必要とする地域の保護意識をさらに一層強化しなければならない. 今年, クラツラヘラサギがこの島へ渡ってきたのは8羽であった. 4月20日, 4羽が杏仁砦現われ, 営巣を始めたが, 5月初め, 村民が島へ渡り, 卵を盗み, 不注意にも火災をおこしたため, 2羽が驚いて逃げ去った. 幸いにも, 6月14日, さらに4羽が来島して棲みついた. こんなに遅くなって, すでに, 1対の成長が3羽の幼鳥を育てこの島を離れていったというのに. このことは, 若し, 当地の村民がもっと野生動物の保護について意識が高ければ, クロツラヘラサギやカラシラサギ, ダイサギ, ウ, ウミネコなどが今よりもっと増えていたと考えられる.

3. 今日まで, 1, 2号巣の雛はまだ孵化しておらず, もしも越冬地へ渡れないうクロツラヘラサギの幼鳥を発見したなら, 我々は, クロツラヘラサギを採取し,

人工飼養，ならびに人工増殖の課題を研究することに対して，野生動物担当部署の配慮により許可をいただきたく提案する。

クロツラヘラサギの発見を，遼寧省と大連市の野生動物担当部署はすでに注目し，重視しており，この地区に対して保護処置を強化することを計画している。

表1 クロツラヘラサギ巣と卵の測定

| 巣番号 | 1 | 2 | 3 |
|---------|---------------------------------|-------------------------------|----------------------------|
| 巣の位置 | 南側断崖 シラカバの根の近く 崖の頂上より1.3m | 南側断崖 シラカバの根元 崖の頂上より0.8m | 西側の岩棚 突出部 崖の頂上より2.3m |
| 巣材 | 3巣とも，シラカバの枝，イネ科の枯れ草，蔓草等 | | |
| 巣内径/cm | 26×24 | 28×24 | 40×30 |
| 巣外径/cm | 66×54 | 72×48 | 92×58 |
| 巣高さ/cm | 25×32 | 38×32 | 19 |
| 巣深さ/cm | 8 | 7 | 6 |
| 卵数 | 2 | 3 | 3 |
| 卵サイズ/cm | 6.7×4.4 7.1×4.6 6.2×4.0 | 6.8×4.3 6.6×4.1 | 雛3羽 観察記録本文 |
| 産卵日 | 7月16日・18日 | 7月14日・16日・18日 | |
| 卵色 | 2巣とも白色，小さい斑点がまばらにある | | |

訳注

* 硯とは岩礁のこと。

アンダーラインの日付は前述と矛盾しているが，原文のままとした。